



石内 國雄

## 今後の雨水対策と 用排水路政策は

町 農業用水利用の観点から  
経済産業課を含めて協議を進める

**Q** 雨水対策事業の現状を問う。想定している災害の程度及び雨水対策と用排水路の今後の政策は。

〈町長〉 浸水被害の深刻な上新田・下新田・福島地区を滝川左岸重点地区と位置づけ、水路改修・新設設置工事を進めてきた。5年に一度の確率で起こり得る降雨の、時間当たり61・6ミリメートルで計画している。流下能力と貯水能力には限度があり、全ての自治体の重要な課題と考えられる。上下水道課・都市建設課だけではなく、農業用水を利用する観点からも経済産業課を含めた担当課で整

備地区を拡大するため協議を進めていく。

**Q** 関係課だけでなく、警察・消防・住民との協議も必要ではないか。滝川南の地域の対策には、貯水池・烏川への流れを考える必要がある。

〈都市建設課長〉 警察・消防・住民との協議は

検討したい。調整池は、用地の取得等が必要となる。

**Q** たまむら道の駅（仮称）の事業主体と町行政の業務と財政の分担は。

〈町長〉 直売所や食堂管理は事業主体、建物・駐車場管理は町が責任を負う。売上の一部及

び使用料を維持管理に充てる。

**Q** 事業主体・駅長により道の駅の成否が決まる。駅長は、いつ決まるのか。

〈経済産業課長〉 今年度中に決まるよう、建設委員会で検討している。

雨水滝3号幹線設置工事  
(上の道路は斉田上之手線)



## 町道や橋梁、用排水路等ライフラインの 長寿命化にどう対応しているか

町 今後インフラ整備が一度に起こらないよう、長寿命化の検討を行っていく



斉藤 嘉和

**Q** 町内には、330キロメートルを超える生活道路や農道が走っている。町道の点検や全面舗装への改良工事はどのように進めているか。

〈町長〉 比較的交通量の多い幹線道路を中心に、約40キロメートルの舗装路面の点検・調査を進めている。劣化の著しい箇所から路面改修を進めていく。

**Q** 住宅地の生活道路の改良工事はどのような進められているのか。

〈都市建設課長〉 地元区長から要望を上げてもらい、劣化の進んでいる箇所から進めている。

**Q** 町が管理している橋梁の維持点検の状況は。

〈町長〉 町では109の橋を管理している。橋長15メートル以上の橋梁27橋は長寿命化修繕計画を策定しており、老朽化している橋梁から順次補修工事を進める。15メートル未満の82橋は、台帳管理上橋となっている箇所も数多く存在している。これらの管理・補修については今後の検討課題である。





老朽化した消防団第9分団詰所



浅見 武志

## 消防団詰所の建てかえと消防車両の入れかえを行うべきではないか

町 委員会を立ち上げ、検討する

**Q** 老朽化している消防団詰所の建てかえ、また消防車両の入れかえを考えているか。

**〈町長〉** 消防団詰所は、第5次総合計画に基づき築40年で建てかえ、消防車両は20年で更新する計画である。

**Q** 全国の火災件数変化やオール電化が進んだことにより、10年前と比べると半減している。このようなこと

**〈町長〉** 更新計画に基づき、順次整備を進めていく。

**Q** 現在、第3分団は築年数37年、9分団36年、5分団35年、1分団・10分団は33年、2分団・7分団は31年と、老朽化が進んでいる。消防車両については、1分団は経過年数19年、2分団・10分団18年、3分団14年、8分団は11年となっている。今後、毎年多くの経費が予想される。

から、消火を第一優先とするポンプ車よりも、ゲリラ豪雨や水害にも対応できる貨物自動車のほうが利便性があると考えられる。1小学校区に2つある消防団を1つにして詰所を建てかえ、車両については1台がポンプ車、もう1台を貨物自動車にすることにより経費削減を図り、消防団員の人数を減らすことなく統合計画を行うてはどうか。

**〈町長〉** 委員会を立ち上げ、また区長の皆さんと協議して進めていく。



滝川にかかる老朽化した橋

**Q** 用排水路の維持点検はどのように進めているか。

**〈町長〉** 町内の農業用、用排水路ができて45年を経過した地域もあり、一部では劣化が目立っている。国の補助事業等を利用して、改修・補強・更新を行っている。

**〈経済産業課長〉** 今年度、榎町堰の水路8キロメートルの機能強化診断を行っている。